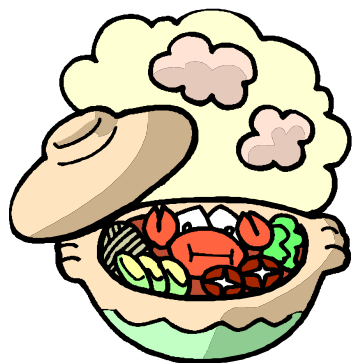


近畿観光地域づくり事例集



平成25年3月

国土交通省 近畿運輸局



観光で地域づくりをするにあたって、その地域をブランディングしていく中心的な役割を担う中核人材が、必要不可欠です。

近畿運輸局では、観光地域活性化の核となる人材を育成するために専門家の招請による研修や観光地域づくりの先進地への派遣による研修等を行う事により、地域における人材育成に取り組んでいます。

平成24年度は、近畿運輸局管内で観光地域づくりをしている代表的な事例や独特な取組を行っている地域の中核人材に注目した事例を紹介し、観光地域づくりに取り組む方々へ広く参考になるよう、この事例集をまとめました。

また、平成25年1月21日に開催した近畿観光地域づくりシンポジウムで基調講演や事例紹介して頂いた講師の取り組み事例も併せて掲載しております。

※中核人材：地域が目指すべきビジョンを明確にし、関係者を集め、認識の共有・合意形成を行いながら、ビジョンに基づく具体的な取組を実施する人材。

平成25年3月

事例の名称	所在地	掲載頁
協同組合滋賀県旅行業協会近江屋ツアーセンター	滋賀県彦根市	3
おごと温泉旅館協同組合	滋賀県大津市	4
株式会社ビーエスシー・インターナショナル	滋賀県大津市	5
彦根市	滋賀県彦根市	6
びわ湖畔のリゾート 白浜荘	滋賀県高島市	7
炎の里信楽の宿 小川亭	滋賀県甲賀市	8
北近畿タンゴ鉄道株式会社	京都府福知山市	9
京都激辛商店街	京都府向日市	10
ほっこりサークル	京都府和束町	11
財団法人美山町自然文化村	京都府美山市	12
一般社団法人大阪あそ歩委員会	大阪府大阪市	13
大阪観光大学 泉州RUSHプロジェクト	大阪府泉州地域	14
一般社団法人大阪ものづくり観光推進協議会	大阪府東大阪市	15
高槻うどんギョーザの会	大阪府高槻市	16
天神橋筋商店街	大阪府大阪市	17
尼崎南部再生研究室	兵庫県尼崎市	18
有馬温泉旅館協同組合	兵庫県神戸市	19
伊丹まちなかバル	兵庫県伊丹市	20
株式会社うずのくに南あわじ	兵庫県みなみあわじ市	21
城崎このさき100年会議	兵庫県豊岡市	22
灘の酒蔵探訪実行委員会	兵庫県神戸市	23
一般社団法人ノオト	兵庫県篠山市	24
今西酒造株式会社	奈良県桜井市	25
株式会社島田工務店	奈良県明日香村	26
天川村洞川エコミュージアムセンター	奈良県天川村	27
箱本十三町観光案内所	奈良県大和郡山市	28
旅館歌藤と吉野町地域の若手有志	奈良県吉野町	29
株式会社梅の郷本店	和歌山県みなべ町	30
高野山宿坊組合・高野山観光協会	和歌山県高野町	31
白浜温泉旅館協同組合	和歌山県白浜町	32
一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー	和歌山県田辺市	33
和歌山電鐵株式会社	和歌山県和歌山市	34

取材協力：観光経済新聞社 関西支社

観光圏整備事業をきっかけに、広域エリアで活動

きょうどうくみあいしがけんりょこうぎょうきようかい おうみやつあーせんたー
 協同組合滋賀県旅行業協会 **近江屋ツアーセンター**
 (滋賀県彦根市)

注目ポイント！

○観光圏をきっかけに広域エリアで活動する組織を立ち上げて活動推進



○滞在プログラムや広域の着地型旅行商品を造成販売・誘客促進

◇地域の概況

・日本のほぼ中央に位置するわが国最大の湖【琵琶湖】。その琵琶湖の北部から東部までの広域4市6町で構成する「びわ湖・近江路観光圏」は、琵琶湖や伊吹・鈴鹿山系に抱かれ、湖、里、むら、山河といった多様な農村景観と自然環境に恵まれており、さらには、京都にも近く、万葉の時代から歴史の表舞台ともなってきた地域である。



彦根城とひこにゃん

・さらには数々の近江商人を輩出してきた地域でもあり、「売り手よし・買い手よし・世間よし」の“三方よし”の精神が深く浸透している。

◇中心となる組織とリーダー等

びわ湖・近江路観光圏 プラットフォーム
 協同組合滋賀県旅行業協会 近江屋ツアーセンター
 所長 田淵正人



問い合わせ先

○協同組合滋賀県旅行業協会 近江屋ツアーセンター
 Tel : 0749-23-0038
<http://ohmiji.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

・観光圏整備事業開始の際に、広域エリアで活動するコーディネート組織が存在せず、広域の観光圏を推進するためには、地域や団体、プログラムを“つなぐ”“まとめる”コーディネートを行うことによって、圏域内の観光客誘致を推進する。



豊郷小学校

◇取組内容

【組織づくり・商品づくり・客づくり】

・**地域内の各主体と連携**し、着地型旅行商品を造成し、販売する。

【旅づくり・人づくり・味わいづくり】

・来訪者に**感動と満足を提供**し、リピーターになっていただくために、“**三方よし**”の精神に基づいた**「おもてなしの心」を醸成**する。

【味よし・周ってよし・泊まりよし】

・圏域内の魅力ある地域資源を活用し、**人と観光資源をパッケージとして商品化**を進め、訴求力のある観光プランとして企画・提案していく。

【体験交流型観光による地域活性化】

・農村生活体験による教育旅行の誘致
 ・地域資源を活用した体験交流プログラムの整備

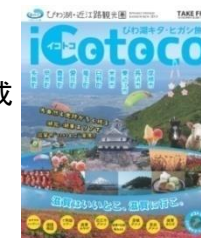


近江時観光圏のHP

◇取組の成果

・地域間、産業間の連携、人的ネットワークの形成
 ・受入体制の構築
 ・地域特性を生かしたプログラムの造成と誘客
 ・人材発掘と育成、住民参加型ツーリズムの推進
 ・着地型ビジネスへの転換
 ・**教育旅行取扱数が増加している。**

(H21 : 189人 → H22 : 1247人 → H23 : 3822人)



近江時観光圏の情報誌

温泉地名の地域ブランド取得

おごと温泉旅館協同組合

(滋賀県大津市)

注目ポイント！

- おごと温泉の次代の経営者育成を目的とした雄琴青経塾を設置
- 5人の卒塾生が役員となり、協同組合の世代交代



若い発想力の活用と同業種の連携が可能になった

◇地域の概況

- ・世界遺産「比叡山延暦寺」の近郊で、琵琶湖畔に広がる約1200年の歴史のある温泉地
- ・大津市への観光入込客数は、近年増加傾向（滋賀県観光入込客統計調査）
 - H21 日帰り 9.2百万人 宿泊 1.1百万人
 - H22 日帰り 9.1百万人 宿泊 1.2百万人
 - H23 日帰り 9.8百万人 宿泊 1.3百万人
- ・おごと温泉にある全旅館10軒が旅館協同組合の会員である。
- ・社会資本整備総合交付金(旧まちづくり交付金)を活用し、平成23年2月に「おごと温泉観光公園」をオープン。



おごと温泉観光公園

◇中心となる組織とリーダー等

- ・針谷 了氏（湯元館）
おごと温泉旅館協同組合 前理事長
- ・榎 高雄氏（雄琴荘）
おごと温泉旅館協同組合 理事長
- ・佐藤 祐子氏（びわ湖花街道）
- ・金子 博美氏（琵琶湖グランドホテル／京近江）
- ・池見 喜博氏（暖灯館さくこのや）
- ・金子 憲之氏（びわこ緑水亭）



マスコットキャラクター
おごとん

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・地域を取り巻く環境が大きく変化し、男性観光客を中心とした団体客の減少や参加体験型の旅行商品など旅行者のニーズが多様化した。
- ファミリーや女性客をターゲットにした観光地への誘致や地域の特性を生かした滞在コンテンツづくりが必要

◇取組内容

【雄琴青経塾の開塾】

- ・同時期に若者が家業を継ぐため地域に戻ってきたことをキッカケに、当時組合役員の針谷氏を塾長とし、次代の旅館経営者となる人材教育を開始。
- 塾の卒業生達が現組合の役員となり、観光地域づくりを担う。

【温泉地名のブランド化】

- ・卒塾生の役員が中心となり、おごと温泉のアピールを目的に商標登録の取得や最寄り駅の名称変更を実施。

【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

- ・おごと温泉とノルディックウォーキングで巡る町歩きと地産地消の食事を活用した滞在コンテンツの開発。
- 「美浴」「美運」「美食」をキーワードにした滞在コンテンツをつくる。



ノルディックウォーキングの様子

◇取組の成果

- ・温泉地として第1号の特許庁『地域ブランド(地域団体商標)』認定
- ・平成21年10月 通い型湯治サービス等が地域産業資源活用事業計画として経済産業省・国土交通省認定となる。

問い合わせ先

○おごと温泉旅館協同組合

Tel : 077-578-1650

<http://www.ogotoonsen.com/>

かぶしがいいしゃビーエスシー・いんたーなしょなる
株式会社BSCインターナショナル

(滋賀県大津市)

注目ポイント！

〇びわ湖のウォータースポーツと循環型農業体験を組み合わせ学習



ウォータースポーツをエコツーリズムに進化させた

◇地域の概況

- ・大津市は日本一の大きさを誇る琵琶湖、比良山や比叡山などの自然に恵まれている。
- ・世界文化遺産の比叡山延暦寺をはじめ、三井寺や石山寺などの歴史遺産もあり、平成15年10月には全国で10番目の「古都」指定を受ける。
- ・JR京都駅から約10分（大津駅・大津京駅）とアクセスが非常によい。大阪、京都のベッドタウンとしても発展している。

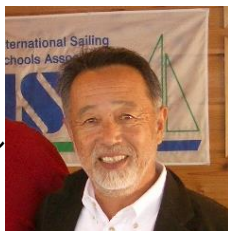


びわ湖

◇中心となる組織とリーダー等

株式会社ビーエスシー・インターナショナル
代表取締役 井上 良夫

主な事業：びわ自然体験、ウォータースポーツスクール
基本コンセプト：「環境保護とエコツーリズムの推進」
「国際感覚の豊かな人材育成」
「アジア諸国との緊密な交流の推進」



問い合わせ先

〇株式会社ビーエスシー・インターナショナル
Tel : 077-592-0127
<http://www.bsc-int.co.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・ウォータースポーツは5月～10月の半年間がオンシーズンであり、残り**半年間のオフシーズン対策**が長年の経営課題だった。
- ・同社の営業区域が大津市都市計画マスタープランで「びわ湖と良好な自然環境の保全区域」に指定される。

◇取組内容

【産業間の連携】

- ・びわ湖の**循環型農業体験学習**を組み込んだエコツーリズムの推進。
- ・琵琶湖では雄大な自然を楽しむウォータースポーツを体験。陸上では地域循環農業について解説し、実際に自分の舌で純正地産の卵や米を味わいながら、深く地域の自然について知ることができる体験を提供。

【連携先】

- ・比良利助(循環型農業)：餌米用に稲作も自ら手がけ、循環型農業システムの構築する。
- ・とびた遊農園(仰木の棚田)：里山農村の原風景がのこる棚田を通して人と自然との繋がりを学ぶ。

農業体験



【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

- ・**びわ湖の非日常を満喫するため**、宿泊が必要な滞在プログラム「湖上で日の出を迎えるツアー」を企画。

ウォータースポーツ体験



◇取組の成果

- ・循環型農業体験を組み合わせたエコツーリズムの推進で一年を通じた体験学習が可能となる。
- ・びわ湖「エコツーリズム体験」
年間利用者数12000人(平成24年)。
- ・滋賀県の感性を伝える「ココクール マザーレイク・セレクション」に選定「サンライズカヤックツアー & メロンパン作り」利用者数約220名(平成24年)総利用者数 約1700名
- ・平成21年2月 循環型農業体験等が農商工等連携事業計画として農林水産省・経済産業省・国土交通省認定となる。



こだわりの飼育方法

こだわりの卵

注目ポイント！

- イベント期間中、キャラクターの商標利用が無料(※平成22年7月からは、有償)
- イベント終了後、彦根市をPRするため彦根城などで定期的に会える。

多くの土産やグッズが販売。人気上昇とともに集客、経済効果もアップ

◇地域の概況

- ・滋賀県彦根市は、古くから城下町として栄えた。近年は、市内に大手企業や大学があるほか、郊外に大型ショッピングセンターも存在するなど琵琶湖東部の中心都市。
- ・彦根城の天守、附櫓及び多聞櫓は国宝、城跡は国の特別史跡かつ琵琶湖国定公園第1種特別地域。1992年には世界遺産登録暫定リストにも登録。
- ・琵琶湖東部の観光拠点であり、毎年7月には読売テレビ主催「鳥人間コンテスト選手権大会」が松原水泳場で開催される。



国宝 彦根城

◇中心となる組織とリーダー等

彦根市観光振興課
観光振興課長 谷澤 幸治

彦根市キャラクター ひこにゃん(彦根市 特別住民)
彦根藩「招き猫」伝説と井伊軍団赤備えの兜から生まれたキャラクター

【ひこにゃん公式サイト・ブログ】 <http://hikone-hikonyan.jp/>



©彦根市

問い合わせ先

○彦根市観光振興課
Tel : 0749-30-6120
<http://hikone-hikonyan.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・彦根の観光は、従来彦根城を中心とした通過型であり、観光客も中高年が中心だった。
- ・城を中心とした国宝・彦根城築城400年祭を開催。



◇取組内容

- 【ゆるキャラを使ったコンテンツツーリズムの定着】
- ・2007年「国宝・彦根城築城400年祭」のキャラクターとして誕生。
→**地域の特徴や文化を形にしたご当地キャラ**
「ゆるキャラ」となる

- ・着ぐるみを使ったイベントPR活動を実施し、ひこにゃんの出演スケジュールや情報発信を**ブログを通じて情報発信**。
→女性や若者層を対象に高いPR効果あった。



彦根城に登場したひこにゃん

- ・イベント期間中は、ひこにゃんの**商標の無料使用**としたことで、多くの土産品やグッズが誕生し地元だけでなく都市部でも商品等が販売され高いPR効果となる。
- ・**観光資源の彦根城本丸(天守前)**などでひこにゃんが**定期的に登場**することで、彦根市内へ観光客を誘致する。

【活動の財源確保】

- ・きれい好きのひこにゃんを、いつもふわふわで真っ白に保つ「みんなのひこにゃん応援事業」を実施
→ふるさと納税制度を活用しひこにゃんファンクラブを結成

◇取組の成果

- ・彦根に訪れる観光客は、家族客や若者客が増加。
- ・ひこにゃん関連のグッズや土産品が購入され、地域の観光消費額が増加。
- ・彦根市の知名度が高まった。
- ・年間観光客数 06年 2,679,800人:彦根城来場者数 467,600人
- ・年間観光客数 12年 3,327,200人:彦根城来場者数 719,500人



イベント風景

水と生きる湖郷・水文化を知る旅をプロデュース

びわこはんのリゾート しらはまそう びわ湖畔のリゾート 白浜荘

(滋賀県高島市)

注目ポイント！

- 安曇川水系の上部から琵琶湖までの川の流れて美しい風景や文化が多く残っている。
- 旅館業だけでなく旅行業の取得

地域内外の観光客に対する滞在プログラムの発信

◇地域の概況

・琵琶湖の西部に位置し、古来より京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝栄える。塩漬けされた鯖を運搬する街道であった鯖街道は有名。
・太平洋側と日本海側に注ぎ込む水系を分ける中央分水嶺が市内を横断しており、市内約80kmの高島トレイルには多くのハイカーが訪れる。

・沖島を背景として琵琶湖畔に鳥居が浮かぶ姿で「近江の厳島」と称される近江最古の白鬚神社は、パワースポットとして近年注目されている。



(白鬚神社)

・安曇川の伏流水を生活用水に利用した川端(かばた)と呼ばれる井戸が多数ある針江生水(しょうぶ)の郷には昔からの地域の水の文化や美しい風景が残っている。

◇中心となる組織とリーダー等

- ・前川 為夫氏
有限会社白浜荘 代表取締役
社団法人びわ湖高島観光協会 副会長



お客様に「便利」「嬉しい」を感じてもらい、「買い手良し」「世間良し」そうすることで自然と「売り手良し」に繋がると思います。

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・ホテル旅館や観光施設など観光関連事業者が観光客を受けて入っていたが地域との連携が密ではなかった。
- ・旅行スタイルが変化し、自然や生活文化を楽しみたいというニーズが強まる

→地域全体で観光客を受け入れるため、**地域一体となった連携**が必要。

◇取組内容

【産業間の連携】

- ・年間を通じて湿度が高い気候のため発酵食品(鮎寿司や酒など)を扱う産業が昔から集積している「発酵するまち高島」で**商工関係者と連携**し地域の伝統産業を知る滞在コンテンツづくりを実施。

- ・針江生水の郷で暮らす**住民の文化を学ぶまち歩き**と宿泊を合わせた滞在プログラムづくりを実施。

→**地域の水文化を紡いだストーリーとして滞在プログラムを企画**

【滞在プログラムの提案】

- ・グループ会社が第2種旅行業や貸切バス事業を取得し、観光地域づくりに取り組む中核組織として地域内の異業種間連携を促進。

→**地域内外の観光客に滞在プログラムを発信する**



(川端での水仕事)

◇取組の成果

- ・郊外の宿泊事業者が旅行業や貸切バス事業を取得することで、地域の特徴を生かしたストーリーのある滞在コンテンツをベースにした魅力ある滞在プログラムを企画実施し、都市部へ情報発信している。

問い合わせ先

○びわ湖畔のリゾート 白浜荘

Tel : 0740-32-0451

<http://www.shirahamaso.co.jp/>

注目ポイント！

- 高速道路が開通し日帰り観光客が増加
- キーパーソンが地域の団体メンバーに就任



陶芸の里ならではの地域内の人との連携
地元の旅館が中心に滞在時間を長くするための滞在プログラムを企画

◇地域の概況

- ・日本六古窯の1つで鎌倉時代以前より継続している窯。信楽はその中でも最古のひとつ。
- ・長年の伝統を誇る信楽町には信楽焼の陶芸作家が多く、緩やかな丘陵に沿って信楽焼の窯元が立地し、陶芸家が活躍している。
- ・2008年 新名神高速道路が開通し、大都市(大阪市、京都市)からの所要時間が大幅に短縮される。



(登り窯)

◇中心となる組織とリーダー等

- ・小河 文人氏
信楽町観光協会 副会長
甲賀市商工会 理事
有限会社 小川亭 代表取締役
炎の里信楽の宿 小川亭 五代目当主



小河氏の考え

『人あってこそその旅館業』
旅館飲食業を通じて、地域社会の発展に貢献し、多くの人から信頼される会社になること

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・平成20年 新名神高速道路が開通したこと等により日帰り観光客が多くなるが、その後は減少傾向となる。

日帰り観光客

H20 277万人 → H21 284万人 → H22 273万人 → H23 265万人

出典：滋賀県観光入込客統計調査

◇取組内容

【旅館 小川亭のこだわり】

- ・信楽焼の宿として、信楽焼きのためき浴槽や食器を特注で作成し、信楽焼を活かしたサービスを提供。
- ・地元の食材を使用した「里の味」を活かした料理を提供。



(信楽焼たぬき)

【他業種との連携】

- ・陶芸の里の特徴を活かし、地元陶芸作家と連携し「陶土」から「焼き」「窯出し」を含めた**本物志向の陶芸体験が出来る滞在プログラム**を企画。

【積極的なPR】

- ・キーパーソンが信楽町商工会青年部や信楽町観光協会メンバーの時に、観光による地域おこしに企画。信楽焼きで有名な狸を1日だけ休暇を与える「たぬき休むでえ〜」。県内初のイベント放送局に挑戦。
→ **地域の団体が中心**となって地域の情報発信を行った。

◇取組の成果

- ・甲賀市の誇る観光資源を活用し「こうかブランド」の創設、発信を行っている甲賀ブランド推進協議会(事務局:甲賀市)にて、甲賀ブランド第1弾として『窯元散策路』が認定
- ・平成23年9月 体験型観光等が地域産業資源活用事業計画として農林水産省・経済産業省・国土交通省認定される。

○有限会社小川亭

問い合わせ先

Tel : 0748-82-0008

<http://www.shigaraki.co.jp/>

注目ポイント！

○地域の一次交通(鉄道)と二次交通(路線バス・タクシー等)と地域の観光サービスをセット



観光客が訪れやすい観光地となり、観光客が増加

◇地域の概況

- ・京都府北部の丹後地域。日本三景・天橋立をはじめとする雄大な自然景観に加え、丹後王国をうかがわせる遺跡、伊根浦舟屋群、ちりめん街道、舞鶴赤れんが倉庫群などの歴史・文化的景観も多い。松葉ガニや寒ブリ、丹後トリ貝など新鮮な海の幸や温泉もある。
- ・平成20年に「日本ジオパーク」に認定。山陰海岸国立公園を中心に、京都府(京丹後市)から鳥取県(岩美町・鳥取市)にかけての日本海沿岸東西約110km及ぶ。日本海形成から現在に至る様々な地形や地質が存在し、それらを背景とした生き物や人々の暮らし、文化・歴史に触れることができる。
- ・平成26年には京都市と丹後地域が京都縦貫自動車道によって直結される予定。



天の橋立

◇中心となる組織とリーダー等

KTR北近畿タンゴ鉄道株式会社
代表取締役:大槻 茂 氏

・京都府北部の市町村を114Kmに渡り縦横断する第三セクター



宮津駅舎

問い合わせ先

○ KTR北近畿タンゴ鉄道株式会社
Tel 0772-25-2323
<http://ktr-tetsudo.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・沿線人口の減少、少子化、道路整備網の進展等により利用者が一貫して減少していた。

◇取組内容

- 【移動の利便性・快適性の向上】
- ・地域の美しい風景を生かした観光列車を運行。国定公園内京都府下最長クラスの橋梁で**最徐行を実施し、ゆっくりと眺望可能**になる。
- ・トレインアテンダントが優先的に乗車し、観光案内や旅のお手伝いを行う。事業者HPでは、アテンダント日記にて**地域や列車内の日常の出来事**を掲載している。
- ・平成25年4月に、水戸岡氏による「松」をモチーフにした観光列車「あかまつ」「あおまつ」を導入予定。



丹後エクスプローラー



あおまつ・あかまつ

- ・**地域の一次交通・二次交通及び地域の観光サービスの特典がついた周遊パス**を販売。利用できる地域を明確にし地域の二次交通(路線バス、観光船など)をセットにして利用者にわかりやすくする。また、大手旅行会社と連携し全国で購入が可能であり、乗車されている**列車に周遊パスを届けるサービス**を実施。

◇取組の成果

- ・地域住民の「ライフライン」だけでなく来訪者の利便性と満足度の高い「旅の足」としてサービスの向上を行い、地元利用者だけでなく遠方の旅行者や外国人観光客からも利用されるようになった。
- ・平成20年10月 テーマ型ニューツーリズム商品等が地域産業資源活用事業計画として経済産業省・国土交通省認定となる



激辛で地域の飲食店を活性化

きょうとげきからしょうてんがい 京都激辛商店街

(京都府向日市)

注目ポイント！

○地域の飲食店約30店舗が仮想の商店街を設立して劇辛メニューを作成



ユニークなPR活動との相乗効果で、短期間に認知度アップ

◇地域の概況

- ・京都府向日市は西日本で一番小さな市。交通機関も集中して、東西約1.2kmの間に東海道本線・東海道新幹線・阪急電車・名神高速自動車道路・国道171号線が通り、JRのマンモス操車場・向日町運転所もある。交通アクセスが良く、大阪、京都の中心部にも約30分程度で移動できる。
- ・向日市の西部に丘陵が南北に細長く横たわり、丘陵の竹林からは多くのたけのこが産出され、またタケノコや京野菜の産地としても知られる。
- ・平安京が遷都される以前10年間のみ長岡京という都が置かれていた。



向日市の市街地

◇中心となる組織とリーダー等

京都激辛商店街
事務長：磯野 勝 氏
(元 向日市商工会 青年部長)



問い合わせ先

○京都激辛商店街
Tel : 075-921-3567
<http://www.kyoto-gekikara.com/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・交通が便利であるため京都や大阪の飲食店に地元客が流出し、地元の飲食店などは集客に苦労していた。
- ・インパクトがあり元気が出るイメージの食でまちおこしを決意。



会議の様子

◇取組内容

【有志のみで連携】

- ・劇辛メニューを提供すること、**設立趣旨に賛同することのみを入会条件**とし賛同してくれた仲間とともに会を結成。
- やる気のある人同士で取り組みを始め、成功体験をつくることで周りの人々を巻き込んでいった。



積極的な地域の産業との連携

【商品の充実】

- ・定番のカレー、麺等はもちろん、和菓子・スイーツなど、常識を覆すメニューを約40店が250種類以上を用意。

【産業間の連携促進】

- ・近畿中四国ペプシコーラ販売(株)や、都タクシー(株)、向日消防署、京都向日町競輪場、JリーグやBJリーグなどと積極的に連携し、商店街をPRする。
 - ・市内でギネス認定世界で一番辛い唐辛子『ブートジョロキア』が生産を開始する。
 - ・通常の出荷価格より高く販売できるメリットある。
- 通常の唐辛子200円/kg 激辛500円～1000円。向日市産のジョロキアを地産地消することで農商連携で街のイメージもアップ。



カラッキーを使った
加盟店募集ツール

◇取組の成果

- ・第1回激辛グルメ日本一決定戦『KARA-1グランプリ』を平成24年3月に開催。
- 8都府県から約50店が参加。約2万人が来場。
- ・第2回は5万人の来場。海外、他府県からの観光客が増加。今後近い将来他地域で持ち回りで開催できるようにする。



KARA-1グランプリの様子

宇治茶(和東茶)を活用した観光まちづくり

ほっこりさーくる ほっこりサークル

(京都府和東町)

注目ポイント！

○地場産業や景観を活用したイベントや認定試験を実施



和東町の知名度アップと観光客誘致に貢献

◇地域の概況

- ・京都府 和東町は「人が輝き美緑(みりよく)あふれる郷 和東」を町の標語に掲げている。
- ・町の特産品は、宇治茶(和東茶)、松茸、トマトがある。
- ・鮮やかな緑の波文様と、隣り合って暮らす民家が並ぶ石垣の集落。鎌倉時代から今日まで茶葉の生産を生業とした先人達の育てた茶畑の風景が京都府景観資産第1号として認定。
- ・和東町は京都府の宇治茶の最大の主産地。



宇治茶の生産地

◇中心となる組織とリーダー等

ほっこりサークル 事務局(和東町商工会)
代表者:上嶋伯協 (上嶋爽禄園 4代目)



- ・取り組み開始:2000年7月
- ・和東町商工会の活動として開始したが、今後は法人格取得し事業の充実を目指す。

問い合わせ先

○ほっこりサークル 事務局(和東町商工会)
Tel : 0774-78-3321
<http://hokkori.jimdo.com/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・京都府和東町は宇治茶(和東茶)の京都府最大の生産地であったが、オリジナルブランド「和東茶」としての知名度は高くなかった。
- ・和東町の茶畑は京都府景観資産として認定を受けていたが、観光資源として活用されていなかった。
- ・和東町や和東町の知名度向上で、地域住民が誇りを持てるまちづくりの一環として始まった。



和東茶のパッケージ

◇取組内容

【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

- ・新茶と二番茶の収穫時期に宇治茶の郷「茶源郷 和東」を満喫する和東茶まつりを開催。ハイキング、茶摘み、茶香服体験や茶工場見学等、お茶に関する様々なほんもの体験ができる。

- ・茶香服段級認定会では、「玉露2種」「煎茶3種」を用い、それぞれの茶葉を見てどのようなお茶がでるのか予想し、熱湯で抽出されたお茶の「水色」「香気」「滋味」から産地や茶種を見分ける競技を行い、段級獲得者には認定証と副賞が贈呈される。



茶摘み体験

【ターゲットの明確化】

- ・地域の生産者「こだわり茶人」と自然やお茶を愛する方・興味がある方を結ぶホットなネットワーク形成を目指す。



茶工場見学

◇取組の成果

- ・和東茶まつりの年間の参加者数 約120人
- ・茶香服段級認定会の認定者数 約30人
- ・満喫イベント毎回約50人が参加。
- ・和東茶カフェの売り上げなど和東茶の販売も増加。



茶香服体験

ワンストップで様々な観光事業を運営

ざいだんほうじん みやまちょうしぜんぶんかむら
財団法人 美山町自然文化村

(京都府美山市)

注目ポイント！

美山のエコツアー拠点を整備。着地型旅行業も展開



美山をフィールドしたエコツアーを通年で実施可能に

◇地域の概況

・南丹市美山町は、林業や農業を中心に栄えた町でしたが近年は観光が大きな産業となる。
・また数多くの茅葺き民家が現存しており、特に知井地区では茅葺きの民家が38戸あり、岐阜県白川村・福島県下郷町に次いで全国第3位。平成5年(1993年)12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。
・美山町東部に広がる芦生の森は、大正10年(1921年)から京都大学と99年間の契約で芦生研究林として原生的な森として保護され、研究の対象となっている。芦生の森から流れ出る由良川は、近畿屈指の清流として鮎釣りのメッカとなっている。上流域の芦生の森は、近年、国定公園化が進行中。



茅葺の集落

◇中心となる組織とリーダー等

財団法人 美山町自然文化村
常務理事・館長：中井 壮
経営理念：「地域と共に生きる貢献の精神と従業員
の物心両面の幸福」



問い合わせ先

○財団法人 美山町自然文化村 (河鹿荘内)
Tel : 0771-77-0014
<http://www.cans.zaq.ne.jp/m-kajika/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・マストツーリズムからの脱却(消費単価の低迷、高齢化の波)
- ・人口減少にともなう地域社会の維持への不安。
- ・エコツーリズムは、地域の誇りや観光資源の再発見とその活用の手法のひとつとして、観光による効果が地域づくりへつながるという理念が、地域とマッチした。

◇取組内容

【ワンストップで滞在プログラムの発信】

- ・宿泊施設、レストラン、入浴施設、会議室、キャンプ場、グラウンド、観光りんご園やバラ園の運営のほか、美山の自然や暮らしを体験ができるエコツアーや体験プログラムを企画販売している。
- ・かやぶき民家に宿泊することもできる。
- ・平成20年1月より南丹市および隣接する近隣の自治体限定での旅行を企画募集する旅行業を開業。**美山町の自然や伝統文化、暮らしをテーマとした旅行を提案**している。
- ・自然や文化に加えて、地域住民とのふれあいや交流、環境教育的な手法も取り入れている。



茅葺の民家に宿泊できる

【地域の魅力の発掘・共有】

- ・**環境と経済の好循環を目的**に南丹市美山エコツーリズム推進協議会を発足。美山町自然文化村を事務局とし、**地域住民や企業との連携**を進めている。

◇取組の成果

- ・通年でエコツアーを実施。年間 約3500人
- ・観光でまちづくりの気運の高まり



エコツアーの様子

「まち歩き」と「まち遊び」

いっばんしゃだんほうじん おおさかあそびいんかい

一般社団法人大阪あそ歩委員会 (大阪府大阪市)

注目ポイント！

○大阪のまちを歩いて、そのまちの歴史や風土、そのまちの人々との出会いを楽しむ



大阪の全域的なコミュニティ・ツーリズムを盛り上げる

◇地域の概況

- ・大阪市といえば産業都市のイメージが強く、以前は、デパートでのショッピングや大阪城見学など大阪見物が観光の中心。
- ・近年は、海遊館やUSJなど大型観光施設が中心に集客。



大阪城

◇中心となる組織とリーダー等

一般社団法人大阪あそ歩委員会
(大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会)
代表理事チーフ・プロデューサー
茶谷 幸治



「大阪という都市の本当の面白さは‘まち’にある。大阪の‘まち’には、町人の心意気が築いた独特の文化が息づいている。これがほんとうの大阪といえるのではないか」

問い合わせ先

○一般社団法人大阪あそ歩委員会
Tel : 06-6282-7102
<http://www.osaka-asobo.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・大阪には1500年もの歴史があり、町人がつくりあげた町人のまち。大阪がいまに受け継いでいる食の歴史や芸能、物語、祭りや伝説は日本を代表するものばかり。それらが大阪の‘まち’にはぎっしりつまっている。それを楽しみ、それを誇りに思い、自慢したいと考えた。



まち歩きの様子

◇取組内容

【地域の特性を生かしたコンテンツづくり】

- ・「**まち歩き**」は、あまり知られていなかった大阪の歴史や食、芸能、物語、祭りや伝説を、それに詳しい地元のガイドさんと歩いて尋ねる。大阪の津々浦々1500年の歴史が浮かび上がる150の基本コースを設定。
- ・「**まち遊び**」は、歴史のまち大阪ならではの四季の遊びを体験。



まち歩きの様子

【住民の意識啓発・参加】

- ・ガイドは、まち歩きやまち遊びを通じて大阪への愛着を深め、大阪の土着文化の重要なインタプリターになる。
- ・ガイドと観光客の交流は、単なる案内人の枠を超えて、人生の経験を交換するようなコミュニケーションが生まれる。

→住民が地域の良さを再発見し、住民が観光客を案内する大阪観光の新しいスタイルを確立。

【法人格の取得】

- ・ガイドさんたちによる自立的な活動展開を目指して、運営組織を独立させた。平成24年4月に一般社団法人化になる。

◇取組の成果

- ・全国一のコース数で、約150コース
(ショートコースを入れると300コース)
- ・年間参加者数約4,000人
すでに参加した人(全国から)15,000人
- ・ガイド数約 200人
- ・大阪あそ歩マップ集(3冊)



大阪観光大学 泉州RUSHプロジェクト

注目ポイント！

○大阪観光大学の学生有志が若者目線で地域振興を目指すプロジェクトチームを結成



大学のある熊取町など泉州地域の自治体や農商工業者と連携して、北摂エリアをターゲットにしたモニターツアーを実現

◇観光地の概況

- ・大阪観光大学のある熊取町やその周辺地域は、歴史や自然、地場産品など観光資源となり得る多様な素材があるが、目玉となる著名な観光地や観光対象が少ない。
- ・泉州地域の水なすや府下のブランド豚“犬鳴きポーク”など地域の食材は近年知名度が高まりつつある。
- ・関西の空の玄関口の関西国際空港があるが、通過されてしまいがちである。
- ・地元自治体も観光や交流を通じた活性化に注目し始めたところであり、連携が期待される背景があった。



熊取町にある大阪観光大学

◇中心となる組織・リーダー等

大阪観光大学 泉州RUSHプロジェクト
窓口：橋本佳恵 教授



問合せ先

○大阪観光大学 泉州RUSHプロジェクト(橋本ゼミ内)
Tel : 072-453-8222 (大学代表)
<http://www.tourism.ac.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・南泉州を目的地にした旅行商品や滞在プログラムがほとんどなかった。
- ・全国各地から集まった学生達が泉州地域の魅力に着目、“良いところ”なのに知られていないのは残念、観光を学ぶ学生として地元の魅力を発見し情報発信したいと考えた。



水ナス

取組内容

【官学の連携】

- ・熊取町・泉佐野市などの行政の観光担当者や地域産業関係者が大阪観光大学の講義でゲストスピーカーを務め、地域住民にも公開されている。(H21～)
 - ・学生が若者の視点で、大学のある地元泉州地域の、新たな観光資源の発掘と情報発信を行う。
 - ・泉州広域の自治体が連携して実施している地域プロモーションのバスツアーに、ツアー企画・広報媒体作成・ツアー当日の添乗補助などで参加した。(H21・22)
 - ・地域ボランティアとともに自然環境保全に向けた活動を継続。(H23～)
 - ・豊富な食材に着目、地域住民と連携し地場産品を使ったスイーツを開発中。→**学生達が住んでいる地域の魅力を知る機会を設ける。**
- ### 【連携の拡散】
- ・熊取町が策定した協働憲章に基づく住民提案事業に申請、採択され、町の助成を受けて、モニターバスツアーなどを学生が企画運営している。(主催は卒業生のいる旅行会社に委託。)(H23～)



モニターツアーの様子

◇取組の成果

- ・モニターバスツアーは、毎年完売の人気の、リピーターもついてきている。
- ・**モニターツアー回数・参加人数：**
H23 2回、H24 3回、各回25名
- ・大学生が観光学部で学んだ知識や取得した資格を応用し経験を積んでおり、地域内の交流促進にわずかずつであるが貢献できている。



モニターツアーの様子

町工場を観光資源に

いっばんしゃだんほうじんおおさかものづくりかんこうすいしんきょうかい

一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会
(大阪府東大阪市)

注目 ポイント !

○東大阪及び周辺地域の世界トップレベルのモノづくりを観光資源に



産業観光として、修学旅行生や企業の視察ツアーを誘致

◇地域の概況

- ・東大阪市は、東大寺の大仏を作った河内鑄物師（かわちいもじ）と呼ばれる職業集団の伝統が脈々と伝えられ、各分野の全国トップシェアを誇る会社や、ユニークな製品を開発するオンリーワンの技術を持つ企業が集積する町。
- ・観光では石切さんで知られる石切神社と参詣道の商店街で知られる。



石切神社の参道

◇中心となる組織とリーダー等

一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会
会長 土方 啓昭

株式会社石切ゆめ倶楽部代表取締役

2009年11月

東大阪モノづくり観光活性化プロジェクト協議会代表理事就任

2012年5月

一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会代表理事会長就任



問い合わせ先

○一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会
事務局(ホテルセイリウ内)

Tel : 072-981-0331

<http://osaka-monodukuri.com/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・ホテルの利用動機は、京都・奈良・大阪への交通利便性のみで、東大阪でなければいけないとの動機は皆無であった。
- ・地域へのご恩返しの事業として、東大阪の誇りであるモノづくりの心を伝えるためのプログラムを開発し、既存の観光との相乗効果で新たな集客観光の仕組みを作り、修学旅行の誘致により東大阪のファン作り及び地域の活性化を図ることを目的としてスタート。

◇取組内容

【産業観光の実施】

- ・**町工場のおっちゃん**がモノづくりの心を熱く語る講演プログラムの企画実施。
→観光客にモノづくりに関心を持ってもらい、モノづくりの重要性を伝える。



【産業間の連携】

- ・東大阪及び周辺地域の**モノづくり関連企業と歴史・文化・風土などのあらゆる地域資源とをマッチング**させた新たな観光交流・集客アイテムである「産業観光」を推進することにより地域への集客を図り、地域のブランド化及び活性化に結びつける。



産業観光ツアーの様子

【地域の意識啓発】

- ・見学受入企業の経営者及び社員への日常的なレクチャーを行う。
→**製造業の現場に、観光集客の重要性を理解してもらう。**

◇取組の成果

- ・2011年11月 地恵のたび(JTB西日本との連携商品)が平成23年度ツアーオブザイヤーグランプリ観光庁長官賞受賞～日本旅行業協会
- ・2012年1月 株式会社ジェイティービー第7回交流文化賞優秀賞受賞
- ・2012年2月 経済産業省第4回ものづくり日本大賞青少年支援部門優秀賞受賞
- ・2013年2月 地域づくり総務大臣表彰「団体表彰」受賞
- ・モノづくり観光プログラム利用者数 2012年度 58件 5994人

主婦の力が、ご当地グルメで観光まちおこし

たかつきうどんぎょーざのかい

高槻うどんギョーザの会

(大阪府高槻市)

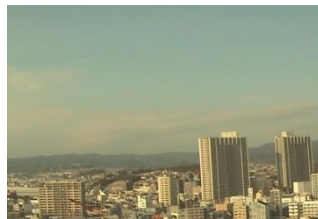
注目ポイント！

- 地域の家庭料理が、大阪・高槻の新名物として注目。
- 主婦が中心となって団体を設立。

「高槻うどんギョーザ」を市内の飲食店に普及させ、
観光まちおこしを成功へと導く

◇地域の概況

- ・大阪府高槻市は大阪と京都の中間に位置し、交通至便なベッドタウン。自然豊かな郊外都市。
- ・芥川の上流部の摂津峡は名勝として知られ、花見や紅葉狩りなどの行楽客が多い。4月には芥川桜堤公園で、約1000匹が泳ぐ「こいのぼりフェスタ1000」が開催されている。



高槻市

◇中心となる組織とリーダー等

『高槻うどんギョーザの会』

会長：梶 廣美

設立 2008年

会員数 約40名（主婦や市民有志）



問い合わせ先

○高槻うどんギョーザの会

Tel : 072-683-0081

<http://r.goope.jp/t-udongyoza>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・高槻市北部の家庭料理を梶廣美さん（現：高槻うどんギョーザの会会長）が販売していたが店舗を閉店したため、幻の食べ物となっていた。
- ・高槻市では、様々な地域資源を掘り起こし、市内外に魅力を発信していく取組みを行っていた。

◇取組内容

【団体の設立】

- ・地元でのPR活動や「高槻うどんギョーザ作り方教室」を通して、**高槻の食文化**
- ・**まちづくりに貢献すること**を目的に会を結成。



高槻うどんギョーザ作り方教室

【品質の統一】

- ・類似品防止や味の統一を図るため講習会を開催し、**受講店のみに 幟が立つ。**また、住民向けの講習会も行う。
- ・**高槻うどんギョーザとキャラクターを商標登録。**



高槻うどんギョーザ

【マップの作成】

- ・高槻うどんギョーザを食べれる店のマップを1万部制作し、各店舗やJR高槻駅構内の高槻市観光案内所などで配布。

<高槻うどんギョーザ>

高槻市北部地域の家庭で約30年前から作られてきた家庭料理。見た目は好み焼き、味はギョーザ。ギョーザの具を皮で包まずに刻んだうどんと混ぜ丸めて焼いたもの。

◇取組の成果

- ・高槻市内の飲食店16店でメニューとして提供。
- ・大阪府「大阪ミュージアム構想」の登録。
- ・高槻名物として定着し、関西のテレビ番組や地元のミニコミ紙等でも紹介されている。
- ・高槻市外のイベントにも出店。B-1グランプリ出場も目指す。



イベントでの出店

注目ポイント！

○大型商業施設の出店等で、買い物客が減少した商店街を観光で活性化するため観光客の受け入れと無料のイベントなどを実施。

あきんど体験などで修学旅行生が研修に訪れる商店街のさがけとなる。
知名度のアップで一般観光客と外国人観光客も増加。
普段の買い物客に比べて、観光客は消費単価が高く売上額が増加。

◇地域の概況

・天神橋筋商店街は、総延長2.6kmの日本一長い商店街として名を馳せている。古くから日本三大祭で知られる『天神祭』が行われる大阪天満宮の参道として栄え、江戸時代、近くには「天満青物市場」が開設され天下の台所・大坂の三大市場と称された歴史がある。
・近年は近くに帝国ホテル大阪や扇町キッズパーク、くらしの今昔館などの
集客施設もでき、若者や外国人にもアピールする街に変わりつつある。



天神祭

◇中心となる組織とリーダー等

天神橋筋商店連合会
会長:土居 年樹

『地域に密着した商店街(まち)づくりを目指しています』



問い合わせ先

○天神橋筋商店連合会

Tel : 06-6352-6164

<http://tenjin123.com/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・大型商業施設の出店や都市部のドーナツ化現象で、買い物客は減少、空き店舗が増加。
- ・約40年前に、商店街の行く先に危機感を持ったメンバー約7人が中心となって商店街を活性化させるため実行組織を設置。天神祭を生かした商店街の観光振興や空き店舗対策に取り組む。

◇取組内容

【若手人材の育成】

・天神橋筋商店連合会青年部が天神祭のみこし担ぎを中心に活動している。
→活動を通して様々な経験を得て、この**経験や連帯感**が組合の役員になった時に発揮されている。

【大学と地域の連携】

・**関西大学と連携**し地域研究や社会連携の研究拠点として大学施設を設置。
→研究者や大学生が多く訪れ商店街に活気が出て

【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

・カルチャーセンター設置や修学旅行生の誘致、ストリートミュージシャンの育成など、ユニークな活動を展開。
・地元の住民や企業、文化人、学者らの協力を得て、NPO法人天神天満町街(まちがい)トラストを設立。町街塾という文化セミナーや研修会実施。
【地域全体の情報発信】
・ホームページの開設やコミュニティー誌の発行を通じて、**地域情報を広く発信**。天神天満をより魅力ある街にし、観光客の誘致に取り組んでいる。



天神橋筋商店街

◇取組の成果

- ・天神橋3丁目商店街の来街者数：
昭和50年約8,000人/日→現在 25,000人/日。
- ・年間の修学旅行の受け入れ数：
約10団体400人程度※中学生中心。



修学旅行生の受入の様子

注目ポイント！

- 大学生、研究者、行政、地域住民が集まった民間団体の開設
- 近代化産業遺産として尼崎市内の運河が認定

近代化産業遺産を活用した運河クルージングの開発

◇地域の概況

- ・臨海部に我が国有数の重工業地帯が発展した。
- ・産業構造の変化に伴う尼崎南部地域の工場や火力発電所の撤退が続く。
- ・急速な工業化と都市化による都市問題、社会問題の発生。
- ・尼崎市(全域)の事業所数(4人以上の事業所)が減少。

(統計でみるあまがさき)

H19 1,000力所 → H22 840力所 16%減

→国や地域の発展に寄与した産業遺産は、**地域の発展を語る地域資源**となる。

→尼崎南部地域の再生をテーマに**ジャンルを超えた人たちの連携**を生む。

◇中心となる組織とリーダー等

- ・若狭 健作氏
(株式会社地域環境計画研究所 代表取締役)
オモロいをテーマに地元の人たちとの“機嫌のよい”
場作りを大切にしているまちづくりプランナー。



観光とはあまり縁のなかった尼崎市をフィールドに、フリーマガジンの企画編集、運河クルージングのガイド、地域産品に光を当てるメイドインアマガサキコンペ(株TMO尼崎)の開催などを通して、地元尼崎のイメージ発信にも取り組んでいる。

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・日本の産業構造の変化に伴う尼崎臨海部の工場地帯の変化
- ・工業都市 尼崎としての知名度の高さ

→**地域振興策の新たなアプローチが必要。**

◇取組内容

【産業遺産の観光活用】

・地域経済の発展に寄与した尼崎市内の運河網を新たな視点から**産業遺産として観光活用**し、隠れた工業地帯の魅力をガイドする運河クルージングを実施する。

【地域の自信・誇りの再生】

- ・地元愛を育てる尼崎市内の特産品を「メイドインアマガサキ」と認定し、ショップ運営は地域住民を巻き込んで行う。
- ・地域住民が面白いと思えるモノをトコトン楽しんでみる事が出来る場を作る。

→住民が見出した地域の魅力だからこそ、**情熱を持つこと**が出来る。

→**地域の日常生活の向上**



運河クルーズの告知

◇取組の成果

- ・尼崎運河クルーズの利用者数
累計18回(観光客)約1,100人
- ・メイドインアマガサキコンペ
過去9回実施 249件の認証
例)マルカの湯たんぽ、ひろたのぽんず 他
- ・「メイドインアマガサキ」に認証された品々をまとめた「メイドイン尼崎本」を2巻発行。**部数2万4千冊**



出版物

問い合わせ先

○株式会社地域環境計画研究所
Tel : 06-6438-1852 (代)
<http://www.ckkplan.net/>

有馬温泉から周遊ツアーの提案

ありまおんせんりょかんきょうどうくみあい 有馬温泉旅館協同組合

(兵庫県神戸市)

注目ポイント！

- 第三種旅行業者の認可
- 他地域(篠山・宝塚・神戸)から集客を考え、広域連携を構築

時代にあった温泉地を目指し、観光客に旅を提案している

◇地域の概況

- ・日本最古の温泉と言われ、「関西の奥座敷」などとも言われる。
- ・金泉源と銀泉源とがあり、泉質は二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉など7つの成分を含んだ世界的にも珍しい温泉。
- ・お土産として「炭酸せんべい」「有馬サイダー」が有名。



有馬温泉

・関西の奥座敷と呼ばれており、大阪及び神戸といった大都市近郊の観光地であり、甲子園球場・宝塚歌劇団といった観光施設が周辺にあった。

→観光客が周遊できる観光地が各所に点在していた。

◇中心となる組織とリーダー等

- ・金井 啓修氏 (有馬温泉旅館協同組合 専務理事)
有馬温泉旅館協同組合
加盟旅館数 26件
平成24年6月 兵庫県知事登録第三種旅行業 取得



→温泉地の課題を地域の温泉旅館が共有し、同業種の旅館同士が連携し旅行会社立ち上げに導く。

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・団体客を対象とした大型観光ホテル等による観光客の囲い込み
- ・近郊の都市からの日帰り観光客の増加

→人口減少や旅行の「型」の変化といった観光を取り巻く環境の変化に対応する必要があった。

◇取組内容

【同業種の連携】

・有馬温泉旅館協同組合が第三種旅行業を取得し、篠山市の古民家を訪れる観光客や西宮市の甲子園を訪れる観光客・宝塚市を訪れる観光客を対象とした有馬温泉でもう1泊してもらえるような旅行商品を企画。有馬温泉への集客力を高める。



有馬温泉ゆけむり大学

【若手の育成】

- ・有馬温泉旅館の若手が主導して観光地域まちづくりのマスタープランの作成。
- ・周辺大学と連携し、学生の目線でのイベントを有馬温泉で実施。
→有馬温泉に親しんでもらうことで、有馬温泉のファン化やサポーター化にして、若い人たちの活躍できる場を作る。

◇取組の成果

- ・着地型旅行商品「有馬もうひと旅社」ブランドの設立。
- ・(社)有馬温泉観光協会と大阪音楽大学×近畿大学×神戸芸術工科大学×武庫川女子大学の4大学が「つながり」をテーマに、若者の力で有馬温泉を活性化させようと2010年に『有馬温泉ゆけむり大学』を開学。



問い合わせ先

○社団法人有馬温泉観光協会 有馬温泉観光総合案内所
Tel : 078-904-0708
<http://www.arima-onsen.com/>

飲み歩きイベントで市街地を活性化

とくといひえりかつどうほうじん いたみ타운せんたー

特定非営利活動法人 いたみタウンセンター

(兵庫県伊丹市)

注目ポイント！

- 江戸時代から酒造業が栄え、酒蔵がある街並みが残る。
- 住民がまちづくりに積極的に参加する。



地元らしい関西初のバル「伊丹まちなかバル」を開催

◇地域の概況

- ・兵庫県伊丹市は、大阪、神戸のベッドタウンのひとつ。大阪国際空港（伊丹空港）は、大阪府豊中市と兵庫県伊丹市にまたがっている。
- ・江戸時代には酒造業が盛んで伊丹郷として有名であり酒蔵が現在も残っている。また、多くの文化人が訪れ俳諧文化の中心地として栄え日本三大俳諧コレクションのひとつとして柿衛文庫は有名。



伊丹の市街地と商店街

◇中心となる組織とリーダー等

特定非営利活動法人いたみタウンセンター
理事長 濱田 恵三

伊丹市中心市街地の活性化を目的として、事業者・市民・大学・伊丹市・伊丹商工会議所などが一体となってまちづくりに取り組む。



平成17年 NPO法人格を取得

問い合わせ先

○特定非営利活動法人いたみタウンセンター

Tel : 072-775-6727

<http://itami-tc.com/bar>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・伊丹市では、他の地方都市同様に、大型ショッピングセンターが郊外に開業し、中心市街地の利用客が減少している。
- ・江戸時代からの酒造業が盛んであった歴史背景から地域の強みを生かしたイベントとして「函館バル街」を手本に「伊丹まちなかバル」を企画。

◇取組内容

- ・「伊丹まちなかバル」とは、各店自慢の1品とワンドリンクのバルメニューをチケットと引き換えに、食歩き飲み歩きして楽しむイベント。



【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

伊丹まちなかバル

- ・現在、全国各地で開催されているまちバルイベントを関西で初めて開催した「伊丹まちなかバル」。このイベントをきっかけに中心市街地には、個性的で魅力ある飲食店が増えている。また、**酒蔵が連なるまちなみを見て歩く**など地域文化を生かした楽しみ方や、同時開催イベント「伊丹オトラクナ一日」による“ながし”スタイルの音楽が聴けるのも大きな特徴となっている。**音楽とお酒があふれる特別な日常**としてイベントを演出している。



酒蔵が連なる街並み

【住民の意識啓発・参加促進】

- ・イベントをきっかけにまちの人とつながりを持ち（メーリングリスト「いたみ〜ご」への登録やFacebookページを活用）、更に**まち衆（住民や商業者等まちづくり活動に参加する方）が活躍する場**を様々な形で企画し住民の参加を促している。

◇取組の成果

第一回 伊丹まちなかバル(2009年開催)
参加店舗:54店 来場者数:5,000人

↓
第七回 伊丹まちなかバル(2012年開催)
参加店舗:95店 来場者数:11,000人



伊丹まちなかバルの開催風景

淡路島の熟れたもぎたての果実と野菜の美味しさを商品化

かぶしがいいしや うずのくにみなみあわじ
株式会社うずのくに南あわじ

(兵庫県みなみあわじ市)

注目 ポイント !

- 生活排水の混じらない清流で育てた淡路島の熟れたもぎたての果実と野菜の摘み取り体験を商品化
- 既存の観光施設に更なる滞在コンテンツを追加

南あわじ市の体験型観光の拠点となった

◇地域の概況

- ・南あわじ市は、南北に長い地形の淡路島の南部に位置する。兵庫と徳島の県境、鳴門海峡では、世界でもめずらしいうず潮を見ることができる。
- ・古来より淡路島は御食国（みけつくに）として朝廷に食材を献上しており、食の宝庫として知られている。
- ・約500年の歴史を誇る『淡路人形浄瑠璃』は国の重要無形民俗文化財。



鳴門海峡のうず潮

◇中心となる組織とリーダー等

株式会社うずのくに南あわじ
企画事業部：森本祐一
園長：西庄ゆか



問い合わせ先

○株式会社うずのくに南あわじ
Tel : 0799-52-1157
<http://www.uzunokuni.com/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・淡路島は温暖な気候を生かした農作物の栽培が盛んだが、観光資源として十分活用されていなかった。
- ・旅行形態の個人化やグループ化、自動車旅行の増加から、女性や家族客に好まれる観光商品の開発が求められていた。

◇取組内容

【産業間の連携促進】

- ・鉢植え果実及び野菜の摘み取り体験の開発と販売。瀬戸内、淡路島の温暖な気候を生かし鉢植えで育てた果実や野菜の摘み取り体験を提供。畑で熟れたもぎたての美味しさを体験できる。
- ・ひとつの場所で手軽にいろいろなフルーツや野菜の収穫体験、食べ比べができる。
(連携先)
- ・百間田農園：低木果樹、野菜の栽培 等
- ・馬回清流の里：低木果樹、野菜生産増産 等
- 通年型観光農園を実施し、お手軽・安全・ホンモノの体験を提供**



加工体験教室

【事業者のサービス品質の管理】

- ・**複数の農家がお互いに連携しつつ、競い合うことで、果実の品質向上に繋げる。**また、1件あたりの栽培本数を抑えることで、手入れが行き届き**品質の維持管理**を行う。



つもと風景

◇取組の成果

- ・鉢植え果実及び野菜の摘み取り体験の年間利用者数 約1500人
- ・収穫果実等を使っでの加工品製造の年間売上 約500万円
- ・株式会社 うずのくに南あわじの売上 約 1%アップ
- ・平成21年2月 通年型観光農園等が農工商等連携事業計画として農林水産省、経済産業省、国土交通省認定される

勤と経験から仕組みとデータ分析へのチャレンジ

きのさきこのさきひやくねんかいぎ 城崎このさき100年会議

(兵庫県豊岡市)

注目ポイント！

- 城崎温泉では多くの観光客が外湯めぐりを経験
- 地域の事業者から観光客の消費実態を把握したいとの声
- 外部有識者との連携

デジタルデータを活用した観光客の消費実態をリアルタイムに把握が可能になった

◇地域の概況

- ・城崎温泉は、約1400年前から続く温泉観光地。
- ・江戸時代に天下一と賞賛された「一の湯」をはじめ七つの外湯めぐりが有名。



- 平成23年度 外湯入浴者延べ人数約152万人（豊岡市温泉課データ）
- ・城崎温泉の多くの旅館では売店や喫茶コーナーを設置せず、観光客は温泉街に周遊散策するという、城崎独特の「共存共栄」の精神が昔から根付いている。また、ゆかた姿で飲みに行けばつけがきき、翌朝旅館で精算できるシステムがある。
 - ・城崎温泉はまち全体がひとつの旅館で、駅が玄関、旅館がお部屋、外湯がお風呂という考え方が浸透しており、まち全体でもてなそうという考え方が息づいている。

◇中心となる組織とリーダー等

・高宮 浩之氏

城崎このさき100年会議 ゆめばプロジェクトリーダー
城崎温泉観光協会 副会長
城崎温泉 旅館 山本屋 代表取締役



「ゆめばはデジタルの力を借りて、そのまちづくりを進めていきます。デジタルは便利なモノですが、あくまで黒子としてサービスアップにつなげていきます。」

※城崎このさき100年会議：城崎の商工会や観光協会など各種団体・住民が連携してまちづくりを推進する為の組織

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・城崎温泉の宿泊客が、外湯めぐりをするには旅館が事前に用意した紙の外湯券が必要であったため、外出中に外湯券が足りなくなると宿へ取りに戻るなど不便な点があった。

→浴衣で外湯巡りをする際に途中で買い物がしたくても、現金を持っていないためお買い物が出来ないことがあった。

◇取組内容

【IT技術の導入】

- ・外湯券を紙製からICカード等デジタル化することで、外湯巡りを気軽に何度でも入浴が可能となった。

→観光客の利便性が向上



(デジタル外湯券)

【デジタルデータの活用】

- ・デジタル外湯券を使用することで、観光客の属性データ(男女別やグループ人数等)という大量の情報を蓄積・分析することが出来る。また、売店や外湯での観光客の消費実態を把握することができる。

【異業種間の連携】

- ・(独)産業技術総合研究所サービス工学研究センターとの連携により、新たな知見を活用した**観光地域全体の訴求力の向上へとつながる。**

【地域が主体となって活動】

- ・地域が中心となって活発な意見交換やアイデアを出していく体制づくりのため、事業名“ゆめば”は地域からの提案を採用。行政が計画事業化するのではなく、地域が主体となってやりたいことを行政がバックアップする方式で進めた。

◇取組の成果

- ・ログデータの分析から、街中周遊の人気コースの検出や回遊型イベントの売上効果が高いことが判明。
- ・客観的データにより街の意思統一が図りやすくなる。

問い合わせ先

○城崎このさき100年会議

Tel : 0796-32-3663

<http://www.kinosaki-spa.gr.jp/>

なだのさかぐらたんぽう じっこうしいんかい
灘の酒蔵探訪実行委員会

(兵庫県神戸市)

注目ポイント！

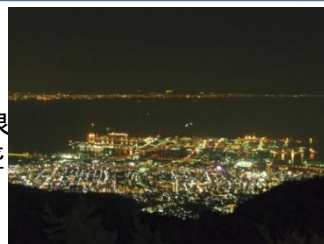
○日本一の酒どころの灘五郷が民間企業・行政と連携



神戸に酒蔵めぐり観光を定着させた

◇地域の概況

・神戸市は、観光都市として、北野異人館、六甲山、港町の神戸ハーバーランド、有馬温泉に加え、近年では大河ドラマ「平清盛」で、清盛ゆかりの地として歴史観光でも集客に成功。
・年間の観光入込客数は観光地点、イベントの合計で3,000万人を越える。



1000万ドルの夜景

・灘五郷は「灘の生一本」として全国的に有名な日本酒の生産地。
神戸市灘区から西宮市にかけて、西郷、御影郷、魚崎郷の灘三郷(神戸市内)と、西宮郷、今津郷(西宮市内)まで、日本最大の酒蔵の街並みが続き、酒造りに関する数多くの施設が点在している。

◇中心となる組織とリーダー等

灘の酒蔵探訪実行委員会

(灘五郷酒造組合と(財)神戸国際観光コンベンション協会で構成)
委員長 白樫達也

(灘五郷酒造組合 理事長・剣菱酒造株式会社 代表取締役社長)
灘五郷酒造組合：西・御影・魚崎・西宮・今津郷の蔵元28社で構成。
また、地域には各社それぞれの酒造りをテーマにした9つの博物館や資料館が点在し、楽しみながら灘の伝統ある酒造りの文化を紹介している。



問い合わせ先

○神戸市産業振興局観光コンベンション課
Tel：078-322-5339
<http://www.city.kobe.lg.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

・神戸の代表的な地場産業である酒造業が集積する酒蔵地帯において、地場産業の復興と観光の振興を図るとともに、より多くの人々に酒文化の体験と理解を深めてもらうことを目的に事業を開始。

◇取組内容

【地域の特性を生かした滞在コンテンツづくり】

・**日本酒文化への理解**を深め楽しんでもらうために、酒造メーカー、酒造組合、集客観光施設と行政が連携して、「灘の酒蔵探訪」を**毎年開催**。
・ホテルの宿泊券などが当たる酒蔵スタンプラリー、酒蔵開放などのイベントを実施。
・土曜・日曜・祝日には、ガイド付きで灘の酒蔵をめぐる**期間限定バスも運行**している。

【官民の連携】

・**行政(神戸市)と連携**することで、「ひがしなだスイーツめぐり」など地域内の観光資源を活用した滞在コンテンツと**同地域・同時期に開催**することで地域を周遊できるプログラムを充実させ観光客へPRしている。



灘の酒蔵探訪パンフレット



酒造りの工程を学ぶ資料館

◇取組の成果

・酒蔵地区での連携したPRにより、個人客や団体客含めて、今まで酒蔵に足を運ばなかった観光客の増加に**つながっている**。
・スタンプラリー参加者 約5,500人
・酒蔵めぐりバス利用者 約2,000人



灘の酒蔵めぐりバス

創造的な解決策を提供することで、農村の価値を再構築

いっばんしゃだんほうじん 一般社団法人ノオト

(兵庫県篠山市)

注目ポイント！

- 地域の歴史的建築物を相続者や所有者が維持保存することは困難な場合が多い
- 自治体が所有している文化財も財政難のため維持管理が困難となる。

農山村体験を通した旅行や観光の情報発信拠点として改修運営している

◇地域の概況

- ・篠山市の観光の状況は、日帰り客が多く、団体客に対応できる宿泊施設は少ない。
- ・篠山市の観光の特徴は「まつり」。まつりのほとんどが観光集客イベントで、20年から30年前に始まったものが多く、現在まで続けられてきている。デカンショ祭りや篠山マラソンが有名。
- ・丹波黒大豆や丹波栗などの丹波篠山を代表する農産物が全国的なブランドとなっている。
- ・近年はゴルフ目的の観光客が減少し、着地型観光に力を入れグリーンツーリズムの観光客が増加している。



デカンショ祭り

◇中心となる組織とリーダー等

一般社団法人ノオト

代表理事 金野 幸雄

設立 平成21年2月26日 基金2400万円

職員数: 正職員32人 臨時職員47人

ミッション:『地域課題に対する創造的な解決策を提供することで、我が国における農村の価値を再構築する。』



問い合わせ先

○一般社団法人ノオト

Tel : 079-552-7373

<http://plus-note.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

・篠山市内の農山村では、高齢化の進展、若者の流出、山林の荒廃、獣害の深刻化、農業の担い手不足、空き家の増加、歴史的町並みや生活文化の喪失などの地域課題があった。

◇取組内容

【空き家の再生】

- ・集落の古民家の空き家を持ち主より借り受け、**歴史的建築物の意匠や風合いを保存**しながら古民家を改修し宿泊施設として再生する。
→「**地域の暮らし**」を体験する滞在(宿泊)拠点とする

【協働体制の構築】

- ・歴史文化施設の管理運営・地域コミュニティ(自治会等)に対する中間支援
→専門家が必要なら**実際に連れてくる。助言だけでは終わらない。**



古民家のある風景



古民家で宿泊

例: 集落丸山の宿

4世帯しか住んでおらず限界集落と言われた小さな集落の古民家の空き家を持ち主より借り受け、有志からの出資や補助金をもとに3棟の古民家を改修。「日本の暮らし」を体験する滞在施設として運営。

◇取組の成果

- ・3年間で約40棟以上の空き家をユニークな店舗、施設などに再生し、多くのメディアでも取り上げられている。20~30代女性、ファミリー層などのお客が増えている。
- ・空き家への移住支援(情報発信)と空き家での店舗運営支援
- ・能舞台のワークショップ
- ・古民家/古い神社などでのジャズライブ開催
- ・古民家再生セミナー開催(ノウハウの解説)
- ・味噌作り体験(地域伝統料理・食文化の再生と伝承)

日本酒発祥の地・三輪ならではの滞在プログラム

いまにししゅうぞうかぶしきかいしゃ
今西酒造株式会社

(奈良県桜井市)

注目ポイント！

- 門前町として古来からの風習や暮らし・技法などが受け継がれている
- パワースポット人気から観光客が増加

地域の日常と歴史を感じる滞在プログラムの開発

◇地域の概況

- ・奈良県桜井市には、古墳時代から奈良時代までの史跡や文化財が豊富に点在。神山「三輪山（みわやま）」の麓に開かれた日本最古の市場である海柘榴市（つばいち）は、山の辺の道をはじめ、いくつもの古道が交差する交通の要衝。
- ・三輪山を御神体として大物主神を祀る大神神社の門前町・宿場町として発展。
- ・大神神社は、「酒の神様」として信仰され日本酒発祥の地とされている。
- ・正月三が日には多くの参拝者が初詣し、パワースポット人気から通年を通して参拝客は増加傾向にある。



三輪山と杉玉

◇中心となる組織とリーダー等



・今西 将之氏（蔵主）
今西酒造(株) 代表取締役

「三輪は『酒との由縁が深く、歩けば歴史にあたる素敵な町』地元企業・住民と連携して地元の活性化を実現出来ればと思っています。」



・中村 祐司氏（杜氏）

「杜氏としての酒造りに対する想いをお伝えします！」

今西酒造(株)
万治3年創業350年の歴史を持つ。桜井市三輪地区で唯一の酒造メーカー

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・海外での日本酒ブームは伝えられるが、国内の日本酒の販売量は減少傾向にあった。
- ・奈良県は、日本酒発祥や清酒発祥の地であるが、歴史観光に比べ知名度も低く観光資源としてあまり活用されていなかった。

◇取組内容

- 【NPO法人三輪座の立ち上げ】
- ・三輪地区の歴史や産業、生活文化を次世代に繋いでいくことを目的に地域の民間事業者を中心に、まちづくりを行うプラットフォーム組織として設立。

→地域主体となって、地域住民がまちづくりを担う

- 【門前町への誘導】
- ・大神神社の参拝客が、街で滞在しやすいように駅前の店舗や街道筋に町家スペースを設置。

- 【蔵主、杜氏、蔵人、地元住人によるガイド】
- ・実際に酒作りをしている杜氏や地域住民のガイドによる酒造り体験や地域住民が大神神社をガイドする滞在プログラムを開発。また、それぞれのガイド能力の育成を行う。

→地域が主体的にサービスを提供

- 【観光地としてのPR】
- ・日本酒発祥の地としての知名度アップのため、ターゲット別にPR行い効果的な情報発信を実施。



町屋スペース

◇取組の成果

- ・旅行会社やメディア関係者20名でモニターツアーを実施
- ・サービスではなく観光事業として酒蔵見学を有料化
- ・酒蔵見学者数が昨対比5倍に増加
- ・地元での雇用拡大
- ・平成24年2月：体験交流等が地域産業資源活用事業計画として財務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省認定となる

問い合わせ先

○今西酒造株式会社

Tel : 0744-42-6022

<http://www.begin.or.jp/imanishi/index.html>

注目ポイント！

- 地域住民が村外や県外へ流出。
- 新規就農者やU・Iターン者となる新しい住民を募る。

地域文化を実感できる滞在コンテンツと宿泊をセットにした
滞在プログラムを開発

◇地域の概況

- ・石舞台古墳や飛鳥寺など1400年前からの歴史的風土が村内全域に残る。古都保存法など法律により歴史的風土の保存がされている。
- ・地域には、昔からの里山の暮らしが残っており「飛鳥の棚田」など地域資源として登録されている。
- ・飛鳥時代の歴史的文化遺産に親しめる国民的な癒しの場として、「明日香村まるごと博物館構想」を実施。



「出典 明日香路を写そう写真コンクール事業実行委員会」

◇中心となる組織とリーダー等

- ・島田 昌則氏
株式会社 島田工務店 代表取締役
明日香村商工会 元青年部長

2007年 明日香の自然や歴史文化を見直し、将来に残そうと「NPO法人ASUKA自然塾」を設立。
理事に就任



問い合わせ先

○株式会社 島田工務店
Tel : 0744-54-2647
<http://shimada-c.co.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・明日香村では、古代文化や歴史ロマンの香る郷として、自然美あふれる日本有数の里山として多くの観光客が訪れている一方で、奥明日香と呼ばれる農村地域などでは過疎化・高齢化が進んでいる。
- ・宿泊施設が少なく、多くの観光客が日帰りとなっていた。

◇取組内容

【地域の特性を活かした滞在コンテンツづくり】

- ・築80年の農家を趣を生かしながらリノベーションし明日香の自然・歴史と農村生活の体験の場兼宿泊施設として「あすか癒いの里 森羅塾」を設置。
地元でしか味わえない旬の野菜を使った料理を提供する宿をコンセプトとする。



あすか癒いの里 森羅塾

また、地域の滞在コンテンツを体験できるスクール形式の「飛鳥帰農塾」を企画実施。

→訪れてよし～住んでみたいに導く

【官民の連携促進】

- ・明日香村や明日香村商工会等と連携し明日香ニューリズム協議会を設置し国内外の教育旅行の受入活動を実施。行政は地域のPR活動を中心に、商工会や事業者は宿泊施設の整備やガイドの育成など役割分担を明確にする。

→役割を明確にすることで、迅速な対応が可能となる。

◇取組の成果

- ・海外からの教育旅行の受入開始
教育旅行の利用者の要望等を迅速に対応することで信頼と安心を得て多くの教育旅行の受入に導く。

平成24年度 約200名
(シンガポール、マレーシアなど)



「出典 明日香村商工会」

- ・平成22年2月「飛鳥帰農塾プログラム」等が地域産業資源活用事業計画として農林水産省・経済産業省・国土交通省認定となる。

注目ポイント！

○体験型ミュージアムを拠点に自然観察会とエコツアーを実施



エコツアー目当ての新たな観光客を獲得。観光客の質の向上につながった

◇地域の概況

・奈良県天川村にある洞川（どろがわ）温泉は、世界遺産大峰山から発し熊野川の源流ともなっている山上川のほとり、標高約820m余りの高地に位置する山里。その冷涼な気候から夏にここを訪れる観光客が多い。

・旅館民宿が20数軒、ほかに土産物店や陀羅尼助丸を販売する店が並ぶ。

・修験道の根本道場である大峰山は、開山期間中、錫杖と鈴の音を鳴らす修行の一行と登山者達が行き交うという、過去と現在が共存する。



洞川温泉の旅館街

◇中心となる組織とリーダー等

洞川エコミュージアムセンター
天川村長：森本靖順



問い合わせ先

○天川村洞川エコミュージアムセンター
Tel : 0747-64-0999
<http://www.vill.tenkawa.nara.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・大峰山の修験者の宿泊客は、高齢化と参加者の減少が課題となっていた。
- ・エコミュージアムセンターを見学するだけでは、天川村の自然のすばらしさを伝えるのに限界がある。また天川村の自然に関する事について学びたいという要望も多く寄せられていた。
- ・平成14年度から月に1回その道のプロ（専門家など）を講師に招き自然観察会を開催。

◇取組内容

【来訪者等に対する情報提供】

・洞川エコミュージアムセンターは、「自然」、「水」、「修験道」をテーマに、大峰山系の豊かな自然や生活環境をそのまま生かした博物館。**地域の情報や滞在プログラムを収集提供し、ニーズに応じた案内を行う。**

【滞在プログラムの提案】

・毎年10回程度、新緑や親子向け、鍾乳洞探検、歴史などをテーマにした自然観察会とエコツアーを開催している。

【人材の確保・育成】

・学術的な内容を含むものは専門家に依頼しているが、それ以外の様々な関係者が持っている「知恵」を披露してもらい、次世代の人につながるように心がけている

例：登山・林業体験・魚釣り・バームクーヘン作りなど。



洞川エコミュージアムセンター



エコツアーの様子

◇取組の成果

- ・村全体が高齢化してきているため、村内での後継者探しは難しい。よって村の内外を問わず天川好きの、天川思いの人に後継者を願っている。
- ・ボランティアツアーを実施するなど観光客の質の向上につながる。

はこもとじゅうさんちょう
箱本十三町観光案内所
(奈良県大和郡山市)

注目ポイント！

○観光ボランティアガイドの活動拠点として
郡山市街地に観光案内所を設置

郡山城址・城下町や金魚のまちの
まち歩き観光が気軽に楽しめるようになる

◇地域の概況

- ・郡山城跡・城下町をはじめ多くの歴史遺産や、矢田山系他の自然環境にも恵まれ、又地場産業の金魚養殖も注目されている。
- ・案内所がある箱本十三町は豊臣秀長が構築した箱本制度で、13の町が1か月毎に交替で治安・消火・伝馬等自治運営を行った。
- ・今も城下町の雰囲気が残っている。



郡山城跡

◇中心となる組織とリーダー等

箱本十三町観光案内所
大和郡山市観光ボランティアガイドクラブ
会長 山下 幸男
会員33名



問い合わせ先

○箱本十三町観光案内所
Tel : 0743-55-7013
<http://web1.kcn.jp/kooriyama-guide/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・歴史遺産・自然環境に恵まれた郡山を紹介したかった。
- ・観光資源としては、大和の環濠の代表例として有名な稗田環濠及び集落、戦国時代からの箱本制度という独自の文化や柳澤十五万石の城下町の町並みも残っていた。
- ・大和郡山市へご来訪の方とのコミュニケーションの場として必要性が高まった。

◇取組内容

【観光拠点の設置】

- ・平成23年に住民から提供された建物を改修し箱本十三町観光案内所を大和郡山市今井町に開館。
- ・官民一体の協力で市街地に設置できた。

【来訪者に対するワンストップ窓口づくり】

- ・平成8年に結成されていた大和郡山市観光ボランティアガイドクラブの拠点として、まちなみ観光を本格的に実施。
- ・運営はボランティアガイドに任されている。
- ガイドメンバーが交替で案内所に待機。
- ・「人と郡山のふれあい」をモットーにして大和郡山市を紹介。

【人材の確保・育成】

- ・ガイド仲間増強のため、定期的にガイド養成講座を開催。



箱本十三町観光案内所

◇取組の成果

- ・まちなみ観光を楽しみたい観光客は、郡山に親近感を持たれるようになった。
- ・コミュニケーションの場として、おしゃべりを楽しみに来訪する観光客もいる。
- ・案内所では同行ガイドは受け付けず。同行ガイドは観光協会を受け付けている。市内であれば要望に合わせて同行する。

りょかん かとう と よしのちょうちいきのわかでゆうし
旅館歌藤と吉野町地域の若手有志
(奈良県吉野町)

注目ポイント！

- USTREAM(ユーストリーム)を使った地域の情報番組を放送
- 有名人ではなく、吉野の桜の専門家や地域の職人が出演
- 双方向性のある情報発信が可能に。(視聴者からのコメント書き込み可能)

地域の若手が協力し、内外からの誘客に取り組んでいる

◇地域の概況

・ 吉野は桜(ヤマザクラ)の名所としても知られる。また、吉野杉は日本三大美林の一つ。2004年には、吉野・大嶺を含む紀伊山地の霊場と参詣道が、ユネスコの世界文化遺産に登録されており、世界遺産のある町となっている。

・ 土産品としては、吉野葛を使ったものが人気となっている。近年は桜の保全と過疎化が地域の大きな問題となっている。



桜の吉野山

◇中心となる組織とリーダー等

旅館歌藤及び吉野町地域の若手有志
代表者: 岡本隆志(新鮮しいたけ岡本)
歌藤 順子(旅館歌藤 女将)
大西 秀明(風人園代表)



ユーストリーム「笑ってええとも@吉野」

<http://www.ustream.tv/channel/yoshino-tv>

ユーストリー: 平成23年5月開始。毎週放送。

問い合わせ先

○旅館歌藤

Tel : 0746-32-3177

<http://www.kato-yoshino.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・ 吉野地域の活性化のためにできる事を、地元の旅館や商店などの若手有志で話しあい、「地元から情報発信することで、より身近な吉野を感じてほしい」とユーストリームによる地域の動画放送による情報発信を思いついた。
- ・ このグループでは、他にも外国人向けの情報発信としてモニターツアーを行っている。

◇取組内容

【地域情報の発信】

・ ユーストリームによる地域の動画放送
「笑ってええとも@吉野」を毎週火曜日更新
吉野の魅力、意外性、人と人との繋がりを発信。ゲストには、吉野の桜の保存会や、吉野和紙の職人、金峯山寺蔵王堂の住職などが登場。牛乳屋さん、材木店などのゲスト出演もある。

→ **観光地域と視聴者が双方向の情報交換が可能となり多くのファンが出来る。**

・ **この若手有志らが商工会の依頼でナチュラルリズム研究会を結成。**

京都外国語大学の留学生に協力してもらいモニターツアーを開催。外国人向けの観光パンフレットも制作中。

〈ユーストリームとは…〉

インターネットを使った動画配信サービス。録画映像ではなく、リアルタイム配信が最大の特徴。リアルタイムに出演者と視聴者がメールやSNSなどでコミュニケーション可能。視聴者にその場の臨場感を味わえることができる。



ユーストリームの番組放送画面



◇取組の成果

- ・ ユーストリームは多い時は300近い視聴がある。外国からの視聴者もいる。
- ・ 吉野について、ガイドブック「地球の歩き方」からの取材を受けることになった。
- ・ 有志で始めた「笑ってええとも@吉野」は吉野町と吉野山観光協会からも取り組みが認められ放送を続けている。

かぶしがらうめのだとほんてん
株式会社梅の郷本店
(和歌山県みなべ町)

注目ポイント！

○紀州南高梅を活用した食農・食育体験プログラムを提供



物見遊山、通過型の観光地に体験プログラムと滞在型の需要を喚起

◇地域の概況

- ・和歌山県日高郡みなべ町は、約7割が林野で占め、農地が比較的高く2割程度を占める。
- ・東西に流れる南部川流域には丘陵地が広がっており、丘陵地には日本一のブランドを誇る「南高梅」の梅林が広がる、
- ・「一目百万、香り十里」と称される南部梅林は大勢の観光客が訪れる。梅の歴史や特徴を学べるうめ振興館もある。
- ・毎年たくさんのアカウミガメが産卵の為に上陸する千里の浜もあり、年間約7,000人ものダイバーが訪れている。



南部の梅林

◇中心となる組織とリーダー等

株式会社梅の郷本店
代表取締役 細川 庄三
月向農園
月向 雅彦



問い合わせ先

○株式会社梅の郷本店
Tel : TEL 0739-74-3600
<http://minabe.net/> (月向農園)
<http://kishu-u.me/category/baisenan> (梅仙庵)

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・梅の花の季節には、多くの観光客が訪れるが通過型だった。
- ・南高梅のお土産を購入できる店舗は多いが体験メニューのあるところはほとんどなかった。
- ・梅干製品の売上げが下がっていた。

◇取組内容

【産業間の連携促進】

・旧農家の古民家を改修した農家レストラン「梅仙庵」を拠点として、梅を使った料理のレシピを活用し、和歌山の地産地消にこだわった食事を限定人数に対して提供。

→梅農家の暮らしと農業体験プログラムを提供

【連携先】

- ・月向農園：ロケーションの良い農園及び優れた農業技術の提供
- ・国民宿舎 紀州路みなべ：宿泊施設



梅農家の暮らしと体験
ツアーの様子



◇取組の成果

- ・オリジナル完熟梅酒の開発販売に成功。原材料に梅（月向農園産和歌山県みなべ町）を使用。
- ・古民家レストラン「梅仙庵」で、新メニュー「うめたまごのたまごかけごはん」を開発販売。
- ・「梅酒を楽しむ会」を開催。地元農家の人やペンション経営者、和歌山の酒造メーカーなどで、梅酒の味比べ、勉強会、会合を行っている。
- ・平成21年2月 食農食育体験等が農商工等連携事業計画として農林水産省、経済産業省、国土交通省認定となる。

真言密教の聖地が観光客を積極的に受け入れ

いっばんしゃだんぼうじんこうやさんしゅくぼうきょうかい・こうやさんかんこうきょうかい
一般社団法人高野山宿坊協会・高野山観光協会
(和歌山県高野町)

注目ポイント！

○世界遺産で、観光客数拡大とニーズの多様化。音声ガイド端末機で、外国人向けガイド不足を解消。

世界遺産や仏教体験などの観光商品を整備。
体験メニューや宿坊への宿泊による、より奥深い高野山観光の実現。

◇地域の概況

- ・高野山は約1200年前に弘法大師空海によって開かれた真言密教の聖地。
- ・標高1000メートルの山々に囲まれた山上には、密教を具現する曼荼羅になぞられた宗教都市が広がる。
- ・2004年高野山町石道と高野山の地域一帯がユネスコの世界文化遺産に登録された。
- ・高野山観光協会は昭和23年にスタート。別法人ながら観光協会は高野山宿坊協회를母体になっている。



根本大塔「写真提供：和歌山県観光連盟」

◇中心となる組織とリーダー等

一般社団法人高野山宿坊協会

(平成25年宿坊組合より名称変更)

設立年: 昭和19年 主な事業: 高野山に関する情報発信
宿坊斡旋 宿坊を運営する寺院への情報提供と助言

高野山観光協会

設立年: 昭和23年 主な事業: 観光案内 旅客誘致



高野山観光協会中央案内所

問い合わせ先

○一般社団法人高野山宿坊協会・高野山観光協会

Tel : 0736-56-2616

<http://www.shukubo.net/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」への外国人観光客促進のため、観光地の活性化に取り組む「民間」の活動を支援する観光ルネサンス制度を活用し高野山では金剛峯寺、高野町、高野山観光協会の三者が協賛協力してガイド端末機を導入。

◇取組内容

- ・【受入環境の整備】
- ・高野山観光協会が窓口となり、**英仏中韓日の5カ国語に対応したガイド端末機**を気軽に利用してもらい、歴史と文化に包まれた高野山を知ってもらう。金剛峯寺、壇上伽藍など、山内の103ヶ所の見所を約90分の音声で解説する。
→外国人観光客の集客力アップにつながる。
- ・世界遺産に登録された高野山町石道や熊野古道小辺路などのウォーキングコースを紹介。
- ・仏教体験として、金剛峯寺での阿字観実習 など宗教行事や瞑想体験、写経、御詠歌、華道など、様々な講座が用意された。
(阿字観実習と写経は宿坊寺院でも体験可能)
- ・高野山観光協会では、個人のお客様を対象としたガイドとして金剛峯寺が主催する試験に合格した「金剛峯寺境内案内人」を紹介している。



音声ガイド機

◇取組の成果

- 高野山への観光客数の増減は2003年115万人
→2004年145万人(世界遺産登録) ※和歌山県発表
- ・外国人観光客数: 2003年から2006年116%増、06年→09年127%アップ、09年→10年105%アップ
 - 10年→11年78%ダウン(東日本大震災)、11年→12年はアップの見込み(宿坊組合独自統計)
 - ・音声ガイドは04年開始
過去最高利用実績 2012年3587台(全体)。2009年 555台(外国人利用)



阿字観

しらはまおんせんりょかんきょうどうくみあい
白浜温泉旅館協同組合

(和歌山県白浜町)

注目ポイント！

- 近畿大学水産研究所が地元白浜で完全養殖に成功
- クエを使った宿泊プランを企画販売
- 旅館協同組合加盟の旅館・ホテルで宿泊プランを企画販売

高級魚クエを使った料理が、白浜温泉の新たな名物になる

◇地域の概況

- ・白浜温泉は、日本三古泉、日本三大温泉地に数えられる全国的にも有名な温泉観光地。夏の海水浴客が多い。
- ・大型観光施設「アドベンチャーワールド」にはパンダが飼育されており、こちらの人気も高い。
- ・クエはスズキ目ハタ科の魚で、水揚げが少なく天然物は幻の魚として珍重されるほか、値段も高い。予約も不確実なことから、観光資源として活用するのは難しかった。



白浜

◇中心となる組織とリーダー等

白浜温泉旅館協同組合
理事長：中田 力也 氏



問い合わせ先

○白浜温泉旅館協同組合
Tel : 0739-42-2215
<http://www.shirahama-ryokan.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・白浜は夏季がトップシーズンで、**冬季の集客が課題**であった。
- ・冬季の観光は、日本海側ではズワイガニ目当ての観光客が多く白浜温泉での対抗する食材が必要だった。
- ・養殖クエは、近畿大学水産研究所(白浜町)が1988年に養殖クエの人工ふ化と飼育に成功して以来、商品化にいたるまでの期間、白浜温泉旅館組合は協力してきた。

◇取組内容

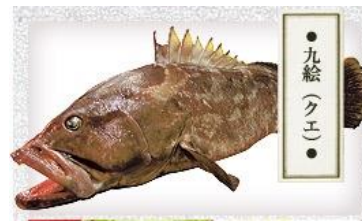
【大学と地域の連携】

- ・近畿大学水産研究所の養殖技術が進み2007年には年間5千尾を超すクエの供給が可能になり、白浜温泉旅館協同組合は2007年9月、白浜観光協会や白浜町商工会、JR和歌山支社、大手旅行会社などと連携し、**養殖クエを白浜の新食材として宿泊客に提供**し始めた。

【販売促進活動の実施】

- ・近畿大学水産研究所(白浜町)は旅行商品のパンフレットにも登場したほか、テレビ、新聞、雑誌など多くのメディアに取り上げられた。白浜の旅館組合だけでなく、近畿大学も近畿大学の養殖技術、養殖されたクエやマグロなどを知名度が上がった。

→生産者と販売店の単純な養殖魚の流通の関係だけでなく**大学も地域も双方がウインウインの関係**を築き上げることができた。



クエを使った料理

◇取組の成果

- ・組合加盟の旅館・ホテル17施設と町内の飲食店8店が養殖クエを使った郷土料理を出し、「白浜＝クエ」のイメージをつくり、名物として、かつ地域ブランド食材として定着。冬季だけでなく、通年で提供するようになった。
- ・クエは、幻の魚と呼ばれ、高級魚でもあることから、新規顧客の開拓や客単価のアップにつながった。
- ・JR西日本や大手旅行会社の白浜の定番旅行商品として定着した。

地域間、地域と観光客を結ぶプラットフォーム

いっぱんしゃだんほうじんなべしくまのつーりずむびゅーろー
一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー

(和歌山県田辺市)

注目ポイント！

○地域の連携を進める実行力のある中間支援組織を設立



着地型旅行商品造成や予約サイト運営、海外への情報発信が実現

◇地域の概況

- ・平成16年7月に、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界遺産リストに登録。
- ・平成17年、田辺市、龍神村、中辺路町、大塔村、本宮町が市町村合併により新「田辺市」が誕生。
- ・熊野本宮大社や熊野古道中辺路などの世界遺産と日本三美人の湯の龍神温泉など知名度が高い観光地を持つ。



◇中心となる組織とリーダー等

一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー
会長(代表理事): 多田 稔子

- ・2006年4月組織を設立
- ・2010年5月法人格取得
- ・2010年7月第2種旅行業取得



問い合わせ先

○一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー
Tel : 0739-26-9025
<http://www.tb-kumano.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

- ・「世界遺産」を核として、世界に開かれ、世界に通用するグローバル化した観光地を目指すには、広域的な視野に立った観光戦略が必要であり、「熊野地域」全域の観光情報の発信に取り組むことが必要となる。
→ **既存の観光協会を構成団体としたプラットフォームを設立**
- ・知名度が増すにつれ、「熊野は行きにくい」「二次交通の整備不足、情報が不足している」といった観光地としての問題点が明らかになる。

◇取組内容

【受入体制づくり】

- ・中期的な事業計画として、設立後最初に取り組んだ事業は、**受入地のレベルアップとインターネット等による国内外への情報発信**による観光客が地域への興味(Interest)や情報検索(Search)が出来るように地域の環境整備に取り組む。

- ①「多言語ホームページ」「プレス・エージェンツツアー」等による情報の整理や発信
- ②「外国人観光客対応レベルアップセミナー」「音声ガイド」等による受入地のレベルアップ。
- ③第2種旅行業の登録

体験プログラムの様子



【これからの観光案内を目指して】

- ・持続可能な観光地域づくりを目指して、「お客様の満足」と「地域における観光・産業振興」を両立するため、旅行業の取得や田辺市内外の滞在プログラムを取り扱う。
- ・地域の当たり前を体験プランとしてプロデュースしてもらう「感動体験プランコンテスト」を実施。
- **観光客のニーズに対応した地域を日常空間にある幅広い情報を提供する。**

◇取組の成果

- ・平成23年4月～平成24年3月の同団体が
取扱った件数及び人数
国内: 342件、1616名 海外: 136件、291名 ※25ヶ国
- ・旅行業収入: 平成23年度 約4,000万円 契約事業者: 111事業者
※平成24年12月末現在

わかやまでんてつかぶしがいしゃ
和歌山電鐵株式会社

(和歌山県和歌山市)

注目ポイント！

○駅隣接の売店の飼い猫「たま」を駅長に任命

○沿線住民らによる熱心な支援により、電車・駅のリニューアルや数多くのイベントを開催



話題を呼んで内外メディアに取り上げられたほか、観光客が増加

◇観光地の概況

・多額の赤字のため廃止の危機にさらされていた貴志川線を、2006年4月より、両備グループが事業を引き継いで運営。JR和歌山駅から東へ14.3kmの路線。
・貴志川線の終着駅「貴志駅」は、檜皮葺の駅舎がある。
・貴志川線沿線には「西国三社参り」として参拝する由緒ある3つの神社やいちご狩りなどがあるものの、全国的に有名な観光スポットは乏しかった。



いちご電車

◇中心となる団体・組織・企業とリーダー（代表者）等

和歌山電鐵株式会社

代表取締役社長 小嶋 光信 氏

社長代理 スーパー駅長たま、伊太祈曽駅 ニタマ駅長

モットー「日本一心ゆたかなローカル線になりたい」

貴志川線の未来を“つくる”会

代表 濱口 晃夫 氏

問い合わせ先

○和歌山電鐵株式会社

Tel : TEL 073-478-0110

<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp>

貴志川線の未来を“つくる”会

<http://kishigawa-sen.jp/>

◇事業開始のきっかけや課題等

・2003年に前事業者が貴志川線の廃止検討を表明後、沿線住民の熱烈な存続運動により、存続のための行政の支援が決定。後継事業者に選ばれた和歌山電鐵が2006年4月1日より事業を引き継ぎ運営。
・和歌山電鐵の開業セレモニーの日、たまちゃんの飼い主から住処がなくなるので駅に住まわせてほしいと頼まれたため、公の場所に猫を住まわせるために電鐵の社員として、駅長職を与えたことが始まり。

取組内容

・和歌山電鐵は、「日本一心ゆたかなローカル線になりたい」がモットー。

【住民の参加促進】

・地元自治体、沿線住民、商工会らで構成する「貴志川線運営委員会」を社内に設置。
・地域との意見交換に基づき、地域による支援を活かす仕組みを作った。
・路線存続後も続いている沿線住民らの物心両面での支援により、多種多様なイベントを開催。



スーパー駅長たま

【コンセプトを明確にしたデザイン】

・2006年にキュートないちご柄で女性に人気の「いちご電車」、2007年に車内にガチャガチャを搭載した子供に人気がある「おもちゃ電車」、2009年にはたまのイラストがいっぱいの「たま電車」が運行を開始。
・2010年には、檜皮葺の駅舎「たまミュージアム貴志駅」が完成。



たま電車

◇取組の成果

・たま駅長就任の話題は多くのテレビや新聞でも取り上げられ、人々が日本各地から貴志川線に訪れるようになった。
・貴志川線の利用者数は事業引継ぎ前の192万人から、218万人(2011年度)へ約14%増加。
・海外メディアでも数多く取り上げられ、日本国外からの観光客も訪れている。